

# 五家荘と学問の神様「菅原道真」

平成22年9月8日校長講話

五家荘の話をする時に、菅原道真（すがわらのみちざね）のことを切り離すことはできません。その菅原道真とは一体どんな人だったのでしょうか。

皆さんも知っているかもしれませんが、菅原道真といえば学問の神様として太宰府天満宮に祀られている大変有名な人です。

試験前になるとたくさんの方が、手を合わせて合格のお願いをします。

菅原道真は、845年6月25日京都で生まれました。小さい時から勉強が大好きで、5歳の時には庭の梅を見て和歌を詠むなど梅にとっても興味を持っていました。また、月を見ては初めての漢詩「月夜見梅花」を作り、その素晴らしさに周りの大人はみんなびっくりしました。その上、弓や刀など毎日練習を重ねて腕を磨き、弓遊び会で百発百中するなど勉強も武道も素晴らしい才能を持っていたのです。

33才になった時、学者としては最高の文章博士（もんじょうはかせ）の仕事につき、中国から来たお客様にも見事な対応をしたのでした。そのあと55才で一番大切な国の仕事をする右大臣になりました。ところが菅原道真の出世をあまり面白くないと思っていた左大臣の藤原時平（ふじわらのときひら）に嘘の罪をかけられてしまい、京都



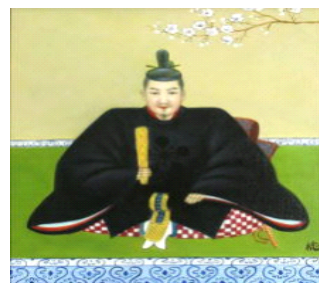
菅原道真(すがわらみちざね)



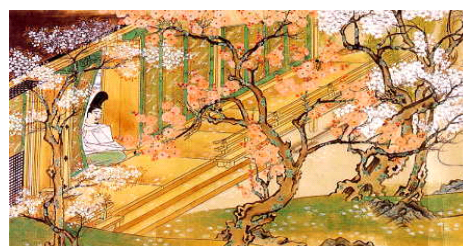
学問の神様に合格を祈願する人たち



「試験に合格しますように」と学問の神様に手を合わせています。



総理大臣のような仕事をしていた頃の右大臣 菅原道真



太宰府に向かう日に 梅にさようならをいう菅原道真

を追われて九州の太宰府に行かなければならなくなりました。それは道真にとって屈辱的なことだったのです。

京都を出発する時に大好きだった紅梅殿（こうばいでん）の梅の木に別れを告げてから、二人の幼い子どもと弟子の味酒安行（うまぎけのやすゆき）だけを伴って寂しく太宰府へと向かいました。太宰府について間もなく、子どもの隈魔呂（くままる）は旅の疲れが重なって死んでしまいました。道真はとても嘆き悲しみました。そのような苦しみの中でも道真は、体を清めて天拝山に登り、人の幸せを願って神様に毎日毎日祈ったのです。道真は、太宰府の仕事場から一歩も出ることもなく、悪い環境のなかで過ごしていたため、ついには病気になってしまいました。そんな中、道真の帰りを京都で待っていたお嫁さんまでもが死んだという悲しい知らせが届いたため、ますます病は重くなってしまいました。とうとう59歳の春、京都には帰れないまま太宰府で生涯を終えたのです。遺体は、弟子の味酒安行によって大宰府の地に埋葬され、そのお墓の上に後で太宰府天満宮が建てられました。残念なことに、死んだ後に菅原道真の罪は嘘だったと言うことを誰もが知ったのです。

ところで、そんな菅原道真と私たちの五家荘はとても関係が深いということを皆さんは聞いたことがありますか？実は、九州の太宰府に左遷させられた菅原道真には2人のひ孫がいました。兄を「菅 宰相（かんさいしょう）」弟を「菅 千代丸」と言いました。道真に嘘の罪を負わせた藤原一族は、道真が死んだ後に2人の兄弟が恨んで仕返しをするのではないかと心配しました。それなら今のうちに2人を殺してしまおうと

東風吹かば匂いおこせよ  
梅の花  
主なしとて  
春を忘るな  
菅原道真



隈魔呂の墓



紅 姫 の 墓



菅原道真の墓



菅宰相が移り住んだ現在の蔵座家



九州に軍勢を差し向けたのです。その情報を耳にした兄弟は、兄が左座(ぞうざ)太郎、弟を菅次郎と名前を変えて、別々の場所に逃げ出しました。兄の左座太郎は、当時、熊山と呼ばれるほど誰も近寄らない安全な山奥の五家荘の仁田尾(にたお)の奥地に逃げ込んでひっそりと隠れ住みました。それが延長元(923)年のことです。その後、兄の左座太郎は仁田尾を支配しました。そこで矢部地区に逃げていた弟の菅千代丸を菅次郎という名前に変えさせて、自分の住む仁田尾地区の隣の樅木地区に住ませたのでした。2人が住んでいた地区には、今でも樅木神社と仁田尾神社があり、菅原道真を祀っているのです。そのことが熊本のとても古い本「肥薩国誌(ひさつこくし)」に書いてあります。



菅 千代丸が移り住んだ樅木地区

五家荘と太宰府天満宮は菅原道真つながりで今でも強く結びつき、交流が続いています。数年ごとに五家荘の全戸に呼びかけてバス数台に乗り合わせ、太宰府天満宮にみんなで参拝に出かけています。太宰府天満宮では、その度に親戚として大歓迎をしてきているのです。



五家荘みんなで太宰府天満宮参拝した記念写真

また「25」という数字を五家荘にとっても、太宰府天満宮にとっても大変意味のある数値なのです。それは菅原道真が生まれた日、太宰府に行くことになった日、そして亡くなった日が全て25日であったことから、太宰府天満宮では毎月25日にお祭りを行い、25年ごとに「大祭」を行っています。だから五家荘樅木地区で行われる樅木天満宮大祭は毎年10月25日に奉納されているのです。

このように五家荘と太宰府天満宮は、学問の神様である菅原道真によって深くつながっています。あなたは菅原道真の子孫であることを自覚して、その名に恥じないよう一生懸命勉強に励んでください。そして菅原道真のように、世のため人のために役に立つ人に育ってくださることを願っています。



菅原道真の血を引き継ぐ子どもたち